高梁川流域キッズ

高梁川流域の天然記念物

くさまのかんけつれいせん
草間の間歇冷泉

関係する市町
新見市

関係のある情報

【場所】新見市草間
【時代】不明
【指定年月日】昭和5年8月25日
【所有】新見市
【見学】可
【見学時の注意】
小川を渡る必要があるため，長靴の着用が望ましい

この天然記念物について

草間の間歇冷泉は、高梁川の支流、佐伏川の岸にある直径約50cmの穴から噴き出る間歇泉です。流水面から約3mの高さから噴き出ます。以前は約8mの高さにありましたが、昭和47（1972）年の豪雨により真上の山が崩れて川床が埋まり、現在は岩壁の山のふもとに位置します。

古くから地元では潮の満ち干と関連があるとし、「潮滝」と呼んできました。間歇周期は5～6時間、1日に4回、約50分間にわたり冷たい水が流れ出ています。地下の石灰洞に水が溜まり、一定量を超えるとサイフォンの原理で地下水が間歇的（一定の時間ごとに）に噴出します。季節により降水量が異なるため間歇周期も変化します。カルスト地帯での間歇冷泉は全国でも貴重です。